

2024 年度「国際交流基金賞」受賞記念講演会

10 月 17 日 モンゴル日本語教師会 10 月 18 日 セインズベリー日本藝術研究所

国際交流基金（JF）は、学術や芸術などのさまざまな文化活動を通じて、日本と海外の相互理解促進に顕著な貢献のあった個人または団体に対し「国際交流基金賞」を授与しています。JF 設立の翌年の 1973 年から実施している本賞は、今回で 51 回目を迎えます。

2024 年 7 月 23 日付で発表しました通り、今年度の受賞者が、塩田千春氏、モンゴル日本語教師会、セインズベリー日本藝術研究所に決定しましたことをもちまして、2024 年 10 月 17 日（木）、10 月 18 日（金）に、受賞者が登壇する「受賞記念講演会」を一般公開で開催します。

取材をご希望の方は、後頁をご参照の上、各締切日までに広報担当者にご連絡願います。ご多用と存じますが、万障お繰り合わせの上ご取材くださいますよう、お願い申し上げます。受賞者への個別取材につきましても、広報担当者までご相談ください。

記

講演会概要（実施日順）：

モンゴル日本語教師会 受賞記念講演会 「モンゴルにおける日本語教育と日本語教師会の歩み」

日時： 2024 年 10 月 17 日（木） 14 時 00 分～15 時 30 分（13 時 30 分開場）

会場： 国際交流基金 日本語国際センター・ホール
（埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-36）

登壇者： エルデネバヤル・バトジャルガル氏（モンゴル日本語教師会 会長）

使用言語：日本語

主催： 独立行政法人国際交流基金（JF）

概要：

モンゴルにおける日本語教育は、社会主義時代の 1975 年から始まりました。1990 年代の民主化に伴い、日本語学習者数と日本語教師数が増え続ける中、日本語教育に携わる教育専門家をまとめる団体として日本語教師会が発足しました。

本講演会では、このような歴史を遡りながら、モンゴルの日本語教育、日本語教師会の活動、さらに、「JF 日本語教育スタンダード」に基づいて作成された初中等教育向けの教科書『できるモン』について紹介します。



この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

セインズベリー日本藝術研究所 受賞記念講演会
「日本の芸術、文化は、いかにして私達の心を満たすのか？」**日時：** 2024 年 10 月 18 日（金） 18 時 30 分～20 時（18 時開場）**会場：** 国際交流基金（JF）本部 ホールさくら
（東京都新宿区四谷 1-6-4 四谷クレーセ 1 階）**登壇者：** サイモン・ケイナー氏（セインズベリー日本藝術研究所 統括役所長）**使用言語：** 英語（逐次通訳つき）**主催：** 独立行政法人国際交流基金（JF）**概要：**

芸術的・文化的活動は、人間にとって本質的なものです。美術館や遺跡を訪ねたり、芸術作品を生み出したり、参加したりすることで、私たちの生活は豊かになります。この講演では、セインズベリー日本藝術研究所の様々なプロジェクトを例にとり、日本の芸術や文化との関わりが、いかに私たちの心を満たすのかについて論じます。

そして、政府や地方自治体などのアクターが芸術と文化に投資することで、結果的に人々が生活のあらゆる場面でその恩恵を受ける、という「Arts Dividend（芸術の配当）」の概念を引用しつつ、いかにしてこの配当を享受する人々をグローバルに広めることができるか、またこの文脈においてデジタル化の動きをどのように活用できるかについても考察します。



会場手配の都合上、ご出席いただける場合には、10 月 15 日（火）17 時までに以下のフォーマットに必要事項を記入の上、お申し込み願います。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=oy_HkJxhhky73GK1b_fZOVwf4A-pm-tGjkUY-DWVbChUQUc0MjVJUUVU3SjZGU1hDWUg3TUVJNEFNQi4u

本案内を書面でお受け取りになった場合、以下の QR コードを携帯電話やタブレット端末でお読み込みいただくか、①撮影の有無（ムービー／スチール）、②貴社名、③ご所属部署名、④貴媒体名、⑤ご芳名、⑥TEL、⑦E メールアドレスをご記載の上、下記の E メールアドレスにお申し込みいただければ幸いです。



press@jpf.go.jp

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

2024（令和 6）年度 国際交流基金賞 受賞者

■塩田 千春（美術家）[日本]

SHIOTA Chiharu (Artist) [Japan]



Chiharu Shiota
Berlin, 2023
Photo by Sunhi Mang

【授賞理由】

塩田千春氏は、ベルリンを拠点として国際的に活躍する美術作家である。

発表当初から一貫して「生と死」といった根源的なテーマと向き合いながら表現を深めてきた。ドイツに留学していた1997年、自らの身体を一つの素材として泥と格闘した作品が作家としての起点となった。2002年スイスのルツェルン美術館で発表した《眠っている間に》は、暗転する程に黒い糸が編み込まれた空間に病院用ベッド30台が置かれた作品で、作家が眠るパフォーマンスを行うなど「生と死」を直接的に表した。また、壁崩壊8年後にベルリンを訪れた塩田氏は、解体されたビルなどから集めた「窓」を壁状に高く積み上げた作品《内と外》(2008)を制作した。あちら側とこちら側とに隔たりながらも互いを見つめることができるその構造は、意見を違えてきた人類の歴史や物語を思い起こさせる。

このような強いメッセージを放つインスタレーション作品によって、ベルリン芸術大学在学中の1999年からドイツの各都市で発表を開始し、ヨーロッパ、アメリカ、アジアと活動の場を次第に広げていった。国際展へも2004年のセビリア現代美術ビエンナーレ以降、毎年

のように参画している。中でも、2015年ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館で発表した作品《掌の鍵》は、空間を覆い尽くすかのような圧倒的な量の赤い糸に、世界中の人々から募った鍵が結ばれて構成された。その火焰が噴き出したかのような強烈な視覚的インパクトと共に、18万本の鍵に込められた人々の願いや思いといった記憶が一体化した見事な表現は多くの人々を魅了した。

日本から単身ベルリンに渡りドイツ在住の日本人作家として揺るぎない地位を獲得してきた塩田氏による全世界を舞台とした活動そのものが国際交流の実践であり、同時に女性の国際的な活躍を促す大きな原動力ともなった。塩田氏は、このような顕著な業績とともに、今後益々の活躍が期待され、国際交流基金賞にふさわしい。

なお、塩田千春氏の受賞記念講演会に関しては、来春の開催を予定しています。詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。



塩田千春
掌の鍵

2015年

インスタレーション：古い鍵、ヴェネチアの木製の船、赤い毛糸
第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展、ヴェネチア、イタリア
写真：サニー・マン

©JASPAR, Tokyo, 2024 and Chiharu Shiota

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■モンゴル日本語教師会【モンゴル】

Association of Japanese Language Teachers of Mongolia [Mongolia]



日本語教育シンポジウム

国大使館、モンゴル・日本人材開発センター、在モンゴル日本人会、モンゴル日本商工会と協力して日本語スピーチコンテストを開催している。また、日本語教育シンポジウムの主催や共催にも積極的に関わり、日本語教師の専門性の強化や日本語教育水準の向上を図っている。『モンゴルの日本語教育』紀要を発行し、日本語・日本語教育に関する学術研究を支援している。2000 年からは日本語能力試験の実施機関として、ウランバートル市では年 2 回、アルバイヘル市とダルハン市では年 1 回の試験を行っている。また、JF 日本語教育スタンダードに基づいて初等・中等教育機関向けの教材開発も行い、モンゴル国内の日本語教育に大きな影響を与えた教科書『できるモン』を完成させ、広く普及させている。

2023 年度には「第 7 回漢字ナーダム」「第 15 回日本語教育シンポジウム」「第 29 回学校対抗日本語スピーチコンテスト」など、多彩な日本語教育関連行事を実施し、日本に対する理解の促進及び両国の関係の発展に尽力している。日本語教育に関する理論と実践の往還のためモンゴル国立大学と協力し、『モンゴルにおける日本研究』の目録を作成している。

このように長年にわたりモンゴル全土の日本語教育機関や教師との緊密な連携を通じた国際相互理解の促進に貢献してきており、その業績は国際交流基金賞にふさわしい。今後のさらなる活躍と発展を期待し、国際交流基金賞を授与する。

【授賞理由】

モンゴル日本語教師会の活動は、モンゴル全土の日本語教育の発展と普及に多大な貢献をしている。モンゴルにおける日本語教育の歴史は、1975 年のモンゴル国立大学文学部日本語コースの開設に始まり、現在では初等・中等教育機関から高等教育機関まで日本語教育の幅広い発展と普及に至っている。

モンゴル日本語教師会は 1993 年に設立され、1998 年にモンゴル法務・内務省に登録された。現在、会員数は 363 名で、モンゴル国内の日本語教育を支援している。主な活動として、在モンゴル日本



学校対抗日本語スピーチコンテスト

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■セインズベリー日本藝術研究所【英国】

The Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures (SISJAC) [U.K.]



【授賞理由】

セインズベリー日本藝術研究所は、ロバート・セインズベリー卿ご夫妻の資金援助により、1999 年英国のノリッジに設立された日本の藝術・文化に関する調査・出版・交流のための研究機関である。本年度で設立から 25 周年を迎える本研究所は、現在、日本藝術・文化に関する知識と理解の促進のための欧州最大の研究機関の一つにまで発展している。

図書館は日本の芸術・文化・考古学等の関連史料 5 万冊以上を所蔵し、本研究所はフェローや世界中からの客員研究員を併せると、設立以来 90 人以上が在籍していた。本研究所は開かれた組織として社会向けの活動も多く、毎月第 3 木曜日に一般向けの講演会も開催し、すでに 250 回を超えている。22 年には「ストーンヘンジと日本の先史時代」と銘打って、サイモン・ケイナー現所長の専門である縄文時代の火焰式土器や土偶の展示会が開催され、日本を含む世界で好評を博した。

セインズベリー日本藝術研究所は日本を含む世界の関連研究機関との学術交流もさかんに行っている。ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）、大英博物館、東京大学、中央大学、学習院大学、国学院大学、立命館大学などとの研究者交流、国際ワークショップ、共同企画などを通じて連携を強化している。そのなかでも注目すべきはイースト・アングリア大学との教育連携であり、11 年から「日本学研究センター」を開設するとともに、20 年からは「学際日本学修士課程」を設置するまでに至った。

セインズベリー日本藝術研究所は、時代に合わせて研究所内の所蔵品や史料のデジタル化も積極的に進めており、世界のどこからでもそれらを見ることができるように進めている。また、近年では若い世代の需要に合わせて、考古学やマンガ・アニメなどにも関心領域を広げる柔軟性も示している。このように、本研究所は今後も欧州における日本研究の中心機関として大きな活躍が期待でき、国際交流基金賞を授与するに値すると考える。



Stonehenge Exhibition

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp